



じしゅう どうこうさん
時宗 東岡山

福田寺だより



ホーム
ページ



フェイス
ブックス



イン
グラム

「舍利弗、彼の仏の光明は無量にして十方の国を照らすに、障碍する所無し。是の故に号して阿弥陀と為す。」 『仏説阿弥陀経』



ちえ だいいち しゃり ぼつ せんじゃ 智慧 第一の 舍利 弗 尊者

【意訳】(お釈迦様が阿弥陀仏の説明をして) 舍利弗よ、かの仏の光明は無量であり、十方の国を照らすに障害となるものはない。それ故にかの仏の名を阿弥陀(サンスクリット語のアミターバの漢訳。無量の光を意味する)という。

気温、湿度共に高くなって参りました。

今年はマスク必須の夏を迎えそうですが、熱中症には十分ご注意ください。

今月はお釈迦様の十大弟子の一人、舍利弗(シャーリプトラ)尊者をご紹介します。十大弟子とはお釈迦様の弟子たちの中で主要な10人を指します。その中でも舍利弗尊者は、筆頭の存在で、同期入門の目連尊者と並び二大弟子とも言われます。十大弟子にはそれぞれ特に優れた一面から「〇〇第一」という尊称がつけられており、舍利弗尊者は「智慧第一」と称されました。先月のお便りでも申し上げましたが、この「智慧」とは知識のことではなく、物事の道理や特性を見抜く力のことを言います。

実は舍利弗尊者は、お釈迦様と出会うまでは目連尊者と共にサンジャヤという人物の高弟でした。お釈迦様の弟子から教えを聞き、すぐに250人の修行者を連れて入門しました。まもなく覚りを開くと教団の指導的役割を担ったといえます。仏教ではお釈迦様と同様に覚りを開いた人を阿羅漢(あらかん)と呼びます。

さて、舍利弗尊者を知らなかったという方もおられると思いますが、実は多くの方がお名前を耳にしているはず。様々な経典の中で、仏様との対話相手として智慧の優れた舍利弗尊者が登場するからです。例えば、『阿弥陀経』には、短いお経の中に「舍利弗よ」という呼びかけが36回も出てきます。また、『般若心経』の冒頭に出てくる「舍利子」という語も舍利弗尊者のことです(インドの言葉を翻訳するときに、訳者によって違う漢字があてられることも多くあります)。

ところで、お釈迦様の後継者とも目されていた舍利弗尊者ですが、それを果たすことはありませんでした。晩年に重い病気を抱えていた舍利弗尊者はお釈迦様にいとまごいし、数十年ぶりに母の元へ帰郷しました。そこで母に仏教を説くと大いに喜ばれましたが、にわかには体調を崩し、母に見守られながら息を引き取りました。お釈迦様の悲しみは大変深いものでしたが、他の弟子に対して、“この世に変化しないものはない”という「無常」の真理を覚ること、悲しみを乗り越えて自らの歩みを止めないことを説かれました。

合掌

～写経会のご案内～

* 新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせていましたが7月から開始させていただきます。

開催日：毎月 第4土曜日(7月25日、予約不要)

時間：午後2時～5時(お勤めを2時から行いますが、時間内にいつ来ていただいても構いません。解散は各々自由です。)

持ち物：小筆(購入も可能です・貸出用もあります)

志納金：1,000円